

第1章 令和2年度研究開発実施内容

以下、本文中では「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」を「本事業」と表記することとする。

1 事業の実施期間

令和2年4月20日（契約締結日）～令和3年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 千葉市立稲毛高等学校・附属中学校

学校長名 佐藤 啓之

類型 グローカル型

3 研究開発名

2030年の持続可能な地域社会を創生するグローバル・リーダーの育成

4 研究開発概要

探究活動『稲高生による千葉市創生プロジェクト（1年）』及び『SDGsリサーチプロジェクト（2・3年）』、国際交流、海外研修、英語ディベート授業、グローバル講演会、グローバル企業訪問等により、グローバルな視点を持った課題解決能力を身に付けさせ、持続可能な地域社会を創生する人材を育成する。

「総合的な探究の時間（各学年1単位）」において、『稲高生による千葉市創生プロジェクト（1年）』及び『SDGsリサーチプロジェクト（2・3年）』という探究活動を研究開発する。

探究活動を計画するにあたっては、スーパーグローバル大学（SGU）として採択された千葉大学の国際教養学部をはじめ、コンソーシアムを構成する各機関と連携して、実施内容を構築する。

研究開発にあたっては、探究活動に必要な基礎資料やデータの提供、市の政策担当者や市長と討論する機会や政策を実践する場を設定する。また、本事業を展開するにあたっては、市内大学（千葉大学・神田外語大学・東京情報大学・敬愛大学）、企業（SMB C日興証券株式会社）、千葉市内の各機関（株式会社千葉経済開発公社・社会福祉法人千葉市社会福祉協議会・社会福祉法人千葉市社会福祉事業団・千葉市を美しくする会等）との連携・協力のもと、コンソーシアムを構築して本事業を実施する。

探究活動を充実させるため、幅広い国際交流、生徒の4割以上（2年生320名中140名）が参加する海外研修、全校で実施している英語ディベート授業、世界で活躍する講師を招いてのグローバル講演会、SDGsに積極的に取り組むグローバル企業への訪問等を実施する。

高大連携協定に基づく大学授業の受講について、千葉大学、神田外語大学において、地域連携や国際理解に関する授業を受け、稲毛高等学校の卒業に必要な単位として認定する。

5 管理機関の取組・支援実績

（1）コンソーシアムについて

①コンソーシアムの構成団体

千葉市、千葉市教育委員会、千葉大学国際教養学部、神田外語大学、東京情報大学、敬愛大学、株式会社千葉経済開発公社、社会福祉法人千葉市社会福祉事業団、社会福祉法人千葉市社会福祉協議会、千葉市を美しくする会、SMB C日興証券株式会社

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和2年4月1日	コンソーシアムを組織 ・昨年度からの継続依頼
令和2年9月～10月	コンソーシアム各団体の訪問 ・本事業の説明、千葉市立稲毛高等学校・附属中学校の取組の説明、コンソーシアムとして支援の依頼
令和2年10月2日	グローバル企業訪問 ・敬愛大学の協力により、生徒等が成田国際空港株式会社を訪問
令和2年11月16日	第1学年生徒「総合的な探究の時間」成果発表会 リハーサル指導・助言 ・神田外語大学アカデミックサクセスセンター センター長 長田 厚樹 氏 ・神田外語大学アカデミックサクセスセンター専任講師 竹内 香織 氏 ・敬愛大学経済学部准教授 佐竹 恒彦 氏 ・敬愛大学経済学部准教授 八木 直人 氏 ・千葉大学大学院国際学術研究院助教 田島 翔太 氏
令和2年11月24日	第1学年生徒「総合的な探究の時間」成果発表会 (クラス発表) 指導・助言 ・神田外語大学国際コミュニケーション学科准教授 田島 慎朗 氏 ・神田外語大学アカデミックサクセスセンター専任講師 竹内 香織 氏 ・敬愛大学地域連携センター室長 藤森 孝幸 氏 ・敬愛大学経済学部准教授 佐竹 恒彦 氏 ・敬愛大学経済学部専任講師 米田 紘康 氏 ・千葉大学大学院国際学術研究院准教授 小林 聡子 氏
令和2年12月1日	第1学年生徒「総合的な探究の時間」成果発表会 (学年発表) 指導・助言 ・神田外語大学アカデミックサクセスセンター センター長 長田 厚樹 氏 ・神田外語大学メディア教育センター准教授 石井 雅章 氏 ・敬愛大学地域連携センター室長 藤森 孝幸 氏 ・敬愛大学経済学部准教授 佐竹 恒彦 氏 ・敬愛大学経済学部専任講師 米田 紘康 氏 ・千葉大学大学院国際学術研究院助教 田島 翔太 氏
令和2年12月19日	第2学年生徒「総合的な探究の時間」成果発表会 (異文化理解の部・修学旅行の部) 指導・助言

	<ul style="list-style-type: none"> ・神田外語大学アカデミックサクセスセンターセンター長 長田 厚樹 氏 ・神田外語大学国際コミュニケーション学科准教授 田島 慎朗 氏 ・敬愛大学国際学部准教授 佐藤 邦政 氏 ・敬愛大学国際学部専任講師 三幣 真理 氏 ・千葉大学副学長、大学院国際学術研究院長、国際教養学部長 小澤 弘明 氏
令和3年3月17日	S M B C 日興証券オンラインセミナー <ul style="list-style-type: none"> ・金融・経済教育、キャリア教育に関して、オンラインで講話を実施 ・S M B C 日興証券経営企画部サステナビリティ推進室室長 渡部 裕子 氏 ・S M B C 日興証券経営企画部サステナビリティ推進室 小林 久恒 氏
令和3年3月22日	全校講演会 <ul style="list-style-type: none"> ・東京海洋大学教授 小松 俊明 氏 による講演

(2) カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーについて

①指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

元 千葉市国際交流協会事務局長補佐 若井 たかみ 氏 (都度依頼し謝礼支払い)

②活動日程・活動内容

海外研修実施に当たり、生徒・教職員に対し講話を行う。

活動日程	活動内容
令和3年3月 (新型コロナウイルス感染症拡大のため中止)	生徒・教職員等に対する講話の実施

(3) 地域協働学習実施支援員について

①指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

敬愛大学地域連携センター室長 藤森 孝幸 氏 (都度依頼)

②実施日程・実施内容

日程	内容
令和2年9月24日	敬愛大学において、学長・副学長等との協議設定 ・令和2年度事業における活動計画について協議
令和2年10月2日	グローバル企業訪問 ・成田国際空港株式会社に生徒等が訪問に同行
令和2年11月24日	第1学年生徒「総合的な探究の時間」成果発表会 (クラス発表) 指導・助言
令和2年12月1日	第1学年生徒「総合的な探究の時間」成果発表会 (学年発表) 指導・助言
令和2年12月19日	第2学年生徒「総合的な探究の時間」成果発表会 指導・助言

随時	「総合的な探究の時間」等における指導・助言、グローバル企業訪問等連絡・調整
----	---------------------------------------

(4) 運営指導委員会について

①運営指導委員会の構成員

千葉大学教育学部教授 藤川 大祐 氏
 神田外語大学アカデミックサクセスセンター長 長田 厚樹 氏
 放送大学教養学部教授 岩崎 久美子 氏
 千葉市美浜区長 曾我辺 穰 氏
 明治大学文学部特任教授 藤井 剛 氏

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和2年10月24日（第1回）	第1回会合 ・運営指導委員会設置要綱審議 ・本事業の説明 ・これまでの取組の説明及び指導・助言 ・今後の事業の取組の説明及び指導・助言
令和3年3月11日（第2回） （オンライン開催）	第2回会合 ・本年度の取組の報告及び指導・助言 ・来年度の取組の説明

(5) 管理機関における取組について

①管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

- ・海外研修旅費等学校教育における費用の支援や取組の支援
- ・外国人講師への財政的な支援
- ・総合的な探究の時間における生徒の発表への指導・助言（コンソーシアム）
- ・本事業指定終了後も千葉市のグローバル人材育成の拠点校として位置づけ、継続的な支援の実施

②事業終了後の自走を見据えた取組について

- ・事業の円滑な遂行のため校内体制の整備
- ・地域協働学習実施支援員による事業実施のための大学・企業等との調全体制の確立

③高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

平成31年3月に敬愛大学との協定を締結した。

6 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
探究活動 (総合的な探究の時間)			←									→
国際交流							2回				1回	
本年度は中止/オンラインによる代替企画実施												
海外研修					1回		3回					
本年度は中止/SDGsに関連した課題探究を実施												
英語ディベート授業			←									→
グローバル講演会					1回 中止							1回 実施
グローバル企業訪問							1回					1回
高大接続協定に基づく 大学授業の受講					本年度は中止							

(2) 実績の説明

① 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

・事業1 「稲高生による千葉市創生プロジェクト」

第1学年の6月から12月にかけて、第1学年の生徒が身近な千葉市を教材とし課題設定を行い、フィールドワークを含む調査活動を経てその解決策を提言する活動を行った。令和2年10月15日には、千葉市市長部局・千葉市教育委員会の協力のもと、生徒が千葉市内でフィールドワークを行い、探究活動での疑問点等を確認した。11月から12月にかけて学級単位・学年単位・全体での成果発表会を行い、コンソシアムの協力のもと、大学教授等から指導・助言をいただき、優秀グループを選出した。

・事業2 「SDGsリサーチプロジェクト」

第1学年の12月以降、千葉市創生プロジェクトの経験を活かし、更なる探究活動を個人で展開した。SDGsなどのグローバルな課題と関連付けて、自己の興味関心から主題を設定し、第1学年では研究計画書の作成、第2学年では調査活動及び探究論文の執筆を行った。

学問分野から10個のゼミナールを編成し、生徒は自己の興味関心をもとに所属を決めた。令和元年度は第1学年の生徒のみで活動、令和2年度は第1学年と第2学年の生徒で学年を横断した活動を行った。生徒相互の学び合いや交流によって学習効果の向上を目指している。

・事業3 国際交流

新型コロナウイルス感染症の影響で例年のような活動ができなかった。そこで地域との連携やICTの活用によって、代替企画を実施した。10月13日には、普通科第2学年生徒（内部進学生）は、国際NGOを招いてのセミナーを実施した。また国際教養科第2学年生徒は、同日に東京のJICA本部を訪問した他、千葉大学留学生との交流授業を複数回実施し、後述の探究活動の発表内容についての指導・助言を受けた。第2学年では希望者を募り、メロス言語学院とのオンライン交流を行った。令和3年2月には、国際教養科第2学年生徒は、ユネスコ主催事業の韓国とのオンライン交流を行った。

・事業4 海外語学研修

毎年実施している夏期語学研修、秋期語学研修はいずれも新型コロナウイルス感染症の影響で中止になった。そのため、普通科2年生（内部進学生）、国際教養科2年生はSDGsと関連したグローバル課題を主題とする探究活動を行った。12月19日にそれぞれ在校生を主に対象とし、校内発表会を実施した。

・事業5 英語ディベート授業

ネイティブ講師を活用し、少人数で指導した。また部活動においては、千葉県高等学校英語ディベート大会第1位等、優秀な成績を収めた。

・事業6 グローバル講演会

例年大学等から講師を招聘し実施している。新型コロナウイルス感染症の影響により、8月24日実施予定については中止となったが、3月22日については東京海洋大学教授 小松 俊明 氏 を招いて実施することができた。

・事業7 グローバル企業訪問

コンソーシアムの協力のもと、10月2日に成田国際空港株式会社を訪問した。世界を舞台に活躍する企業を訪問し、普段訪問することができない学校での学習と自分の将来とを関連付けて考えることができた。3月17日には、本年度訪問できなかったSMB C日興証券株式会社とのオンライン交流を校内で実施することができた。

・事業8 高大連携協定に基づく大学授業の受講について

新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

・「総合的な探究の時間」において、コンソーシアムの協力のもと、千葉市を教材とし、身近な課題を発見し解決する探究活動「稲高生による千葉市創生プロジェクト」を行った。また、SDGsなどのグローバルな課題と関連づけて、自ら主題を設定し探究を行っていく活動「SDGsリサーチプロジェクト」を実施した。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

・各教科の授業で本事業の探究活動に資する内容を扱う。例えば、国語科では文章の作成について、社会科では探究活動について、外国語科では英語を使用した発表への作文指導、情報科では効果的な資料作成等を行っている。

④類型毎の趣旨に応じた取組について

- ・千葉市における探究活動を実施するとともに、海外研修においてフィールドワーク等とおして探究活動を行い、グローバルな視点を持つことができるようにしている。また、ネイティブ講師を活用し、先進的な外国語教育を実施している。

⑤成果の普及方法・実績について

- ・研修会での成果発表、報告書等を作成し、関係機関に配付した。
- ・千葉市の広報紙に事業の取組について掲載し、千葉市民へ周知した。
- ・千葉市長への提言等を行い、探究活動の成果を市長部局に還元した。報道機関の取材を受け、新聞等に掲載された。

(3) 研究開発の実施体制について

①地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

- ・校内の総合的な探究の時間検討委員会を中心に、教務部と各教科、国際交流部、各学年団が連携して事業を進める。定期的に進捗状況を確認し、円滑に事業を進めることができる体制をより明確にする。
- ・上記に加え、「SDGsリサーチプロジェクト」を進めていくために、第1学年・第2学年の職員による「合同会議」を定期的実施した。
- ・各教科の授業で本事業の探究活動に資する内容を扱った。(クロスカリキュラム等シラバスに記載)

②学校全体の研究開発体制について(教師の役割、それを支援する体制について)

- ・校内に主に各事業に関わる中心的な職員によって構成される地域との協働推進委員会を設置し、各事業の連絡・調整や外部との連携等を担い、学校全体で研究開発に取り組む体制がつけられた。
- ・総合的な探究の時間検討委員会を中心に、第1学年及び第2学年が主体となって探究活動を推進し、「千葉市創生プロジェクト」及び「SDGsリサーチプロジェクト」を実施した。また連絡調整のために、第1学年・第2学年の総合担当を中心に合同会議を定期的実施した。第2学年については、海外研修が中止となったため、代替となる探究活動を国際交流部と連携し推進した。
- ・地域との協働推進委員会が中心となって、教務部と各教科、国際交流部、各学年団が連携して事業を進める。

③研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

- ・学校長の下で、校内探究委員会において、定期的に進捗状況を確認するとともに、運営指導委員会やコンソーシアムからの指導・助言、高校魅力化評価システム並びに学校評価等を活用し、事業を改善していく。

④カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

- ・コンソーシアムの構築により、地域が求める人材像の共有化や実施プログラムの改善を行う。
- ・総合的な探究の時間における長期的なアドバイザーを、本校の探究活動に長年関わってくださっている専門家3名に依頼し、来年度の探究活動計画を指導・助言いただく体制を構築した。

事業1 稲高生による千葉市創生プロジェクト

1 千葉市創生プロジェクト（高1総合的な探究の時間）の改善について

資料1は、昨年度実施した「千葉市創生プロジェクト」の成果と課題をまとめたものである（生徒及び職員アンケートをもとに整理）。

資料1 令和元年度千葉市創生プロジェクトの成果と課題

- 昨年度の成功（本年度も継続）
 - ・千葉市長へのタウンミーティング
 - ・クラスを解体して混合班を編成
 - ・情報や英語の授業でプレゼンテーションの授業を実施
 - ・学年全体で協力した取組
- 本年度の課題
 - ・慢性的な時間不足
 - ・フィールドワーク中でのトラブル
 - ・班で活動に参加しない生徒（フリーライダー）の存在
 - ・事業の継続性（引継ぎ）
 - ・活動時の端末と通信費
 - ・企画立案への外部組織の活用
 - ・テーマの設定への指導

以前は学年の担当者が主体となって年度ごとに企画を立てていたため、事業が終了後に総括を充分行い、反省点などを検証して他学年に引き継いでいたとは言い難い面があった。そこで、本年度はこれらの課題を克服し、さらに魅力的なプロジェクトにするために改善に取り組んできた。さらに本年度、初めて担当者が変わらずに継続して企画することができた。そのため、スムーズな実施と昨年度の課題を踏まえて、よりよい取組を行うことができるようになった。

2 本年度の実施概要—昨年度との変更点を中心に—

(1) 春季休業中課題について

臨時休校が延び、例年と同じスケジュールで「探究活動とは何か？」というオリエンテーションが行えなかったため、代わりとなる課題を課した。この課題は、「千葉市創生プロジェクト」でも「SDGsリサーチプロジェクト」でも特に重要な部分となる「自分で課題を見つける」という部分に焦点をあてたものである。具体的には、NHKの「プロのプロセス」というサイトから「1課題の見つけ方」という動画を鑑賞して、ワークシートに答えるという課題を出した（資料2・3）。また「NASAゲーム・月面サバイバル」について、事前学習の課題を課した。

資料2 春季休業中課題ワークシート プロのプロセス（課題の見つけ方）

- 1 虫の視点とはどのようなことですか？簡潔にまとめましょう。
- 2 鳥の視点とはどのようなことですか？簡潔にまとめましょう。
- 3 自分の中学校生活で「上手くいったこと」「上手くいかなかったこと」を7個ずつ書きましょう。
- 4 プロ（赤木アナ）のプレゼンをみて上手だと思ったテクニックを3つ以上書いてください。
- 5 動画を見た感想を書いてください。

資料3 生徒のコメント（抜粋）

- ・虫・鳥の視点を用いることで課題を見つけやすいことがわかった。
- ・生徒会選挙という身近な内容を通して課題の見つけ方について教えてくれてわかりやすかった。動画の中にギャグも入っていて飽きなかった。
- ・中学校では「鳥の視点」で考えることが多かった。もっと「虫の視点」を使ってみたい。

（2）探究の導入として「NASAゲーム・月面サバイバル」の実施

昨年度は、8人の班だったことも影響し、班の中で非協力的で活動に参加しない生徒（フリーライダー）の存在が指摘された。そこで本年度の「千葉市創生プロジェクト」はクラスを解体し、6人の班で課題に取り組ませた。グループで取り組むのは、「チームで協力することにより、個人では考えつかないような優れたアイデアや成果が期待できること」「現実の社会でもチームでプロジェクトを行うことが非常に多い」といった理由からである。とは言え、実際にグループで協力し、合意形成を行っていくことは困難の連続であった。

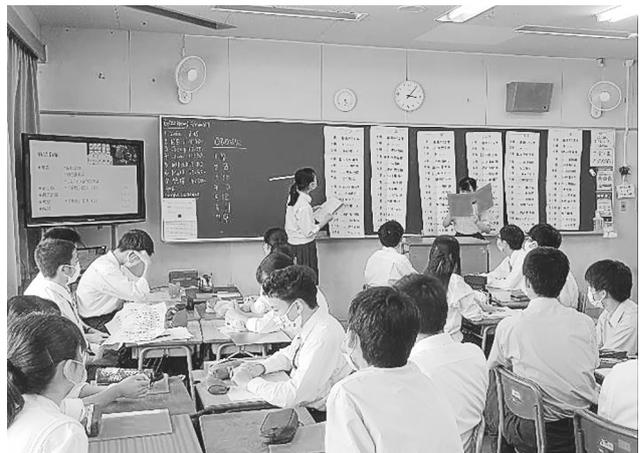
そのため、本年度は導入段階でチームでの合意形成を体験的に気付く仕掛けとしてNASAゲームを実施した。新型コロナウイルス感染症対策のため、年度当初、体育館での集会ができず、各教室のTVへの映像配信による校内放送を利用して実施した。また、学校行事が中止となる中で、クラス内での人間関係を構築する数少ない機会となった。

話し合いのルール

- 1 どのような意見であっても、間違いと決めつけず、他人の発言をさえぎらない。
- 2 最後まで、きちんと話を聞く。
- 3 話を聞くときは、話している人を見て他のことをしない。
- 4 「こんな話をしても無駄」など議論が台無しになるようなことを言わない。

NASAゲームを実施している教室の様子

（体育館での集会ができないため、TVへの映像配信を利用して一斉に行った。）



(3) テーマ設定の指導

探究活動を進めていく上で、テーマの設定は非常に重要である。テーマの質によって、探究の成否が決まると言っても過言ではない。しかし、生徒たちが最初から質のよいテーマを設定するのは難しい。壮大なテーマを設定して着地点が見えなかったり、調べればわかるようなテーマを設定して、深まらなかつたりすることはよくある。かといって、与えられたテーマで探究するのは、生徒たちは探究を「自分ごと」化できない。やはり、テーマは与えるものではなく、生徒たちに内在する疑問や問題関心をもとにつくりあげられていくものであった方がよい。

本年度はテーマ設定にあたっては、最初に地域の課題に視野を広げることを目的とし、「千葉市の気に入っているところ、不満なところ」を、付箋にそれぞれ5つ以上書き、模造紙に貼っていく活動を行った。その際、ブレインストーミングの手法として以下の約束事を生徒に示した。

ブレインストーミングの注意点

- 1 他者のアイデアを絶対に批判しない。
- 2 突飛なアイデア、つまらないアイデアも大歓迎。
- 3 質より量。
- 4 他者のアイデアへの便乗OK。人のアイデアをひねって別のアイデアへ。

テーマ設定

(地域の課題を書き出した付箋を模造紙に張って、テーマを設定した。)



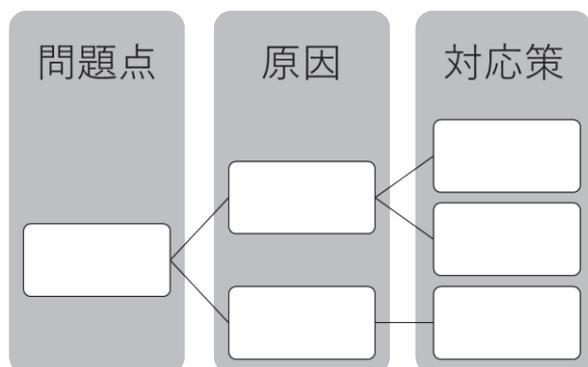
この活動を踏まえて、その次の回以降2時間かけて、さらにアイデアを出していきながら、班でテーマを絞り込ませた。テーマを絞り込む過程では、以下の1～4の条件を全て満たしているかを検討させた。これらの活動を経て、決まったテーマ（p.17の資料13に一覧を掲載）は、昨年度と比較し、地域をテーマとする班の数が大幅に増えた。

テーマの4つの条件

- 1 (そのテーマが) 実行可能か。
- 2 (そのテーマを) 探究して楽しいか。
- 3 (そのテーマを) 探究して社会に貢献できるか。
- 4 簡単に対応策などの答えがわかってしまうものではないか。

実際にテーマが決まった班は、テーマを選んだ理由を班で話し合い、**資料4**のロジックツリーを使って、テーマから問いを作成した。その際、どのような視点で問いを作成していけばよいかの指針として、**資料5**を参考として配布した。テーマから問いを立てる活動は昨年度も行ったが、本年度は、より思考を深め、質の高い問いを作るために思考ツールを活用した。

資料4 ロジックツリー



資料5 問いづくりのための質問

ぶつける質問		取り出される論題 (問いの例)	
1	who 主体	誰が？	
2	what 定義	どういう意味？	
3	when 時間	いつから？	
4		いつまで？	
5	where 空間	どこで？	
6	why 因果	なぜ？	
7	how 経緯	いかにして？	
8		様態	どのように？
9		方法	どうやって？
10	当為	どうすべきか？	
11	信憑性	事実か？	
12	比較	ほかではどうか？	
13	特殊化	これについては？	
14	一般化	これだけか？	
15	限定	すべてそうなのか？	

(4) 企画書 (研究計画書) の作成

(3)の活動を踏まえて、各班で研究計画を立てて、企画書を作成した (**資料6**)。

資料6 企画書 (研究計画書)

- ・研究テーマ
- ・テーマを選んだ理由
- ・問い (疑問点)
- ・仮説 (疑問点から考えられること)
- ・研究手法 (アンケートやインタビュー、実験など調査・研究する内容)
- ・研究計画 (実施日ごとに調査・研究内容等を記入。具体的に誰が、いつ、どこで、なにをするのか)

企画書作成の様子



(5) アンケートやインタビュー調査の事前指導

昨年度はアンケートやインタビューの文言を事前にチェックする仕組みがなかったため、十分な指導ができていなかった。そのため、本年度はアンケートやインタビューの内容を事前に学年職員でチェックし指導した上で、実施の前に、あらかじめ調査先に調査内容を知らせて準備を依頼した。以下は、その手順及び資料（資料7）である。

アンケートやインタビュー調査の手順

- 1 各班で「アンケート及びインタビュー企画書」（資料7）を作成し、学年職員が事前にチェックし、承認する。
- 2 承認された班は、学校内外でアンケート・インタビューを実施する。
- 3 学校外でのアンケート・インタビューの実施を希望する班は、上記1の承認を受けた後、対象の企業・事業所等に電話でお願いできるか交渉をする。企業・事業所等に受け入れていただいた場合、依頼状を作成し、郵送または持参する（アンケートの場合は依頼状に添えて持参する）。アンケート・インタビュー終了後、1週間以内にお礼状を作成し、郵送する。

資料7 アンケート及びインタビュー企画書2020（内容抜粋）

- ・日時（○をつける）…
夏休み前 夏休み中 8/24～10/12 10/13（フィールドワーク予定日）
10/13以外の日時が決定している【 / （ ） 】
- ・相手及び対象者…
- ・行き先及び対象先…
- ・実施者…
- ・事前予約… 必要（予約する人 ）
不必要
- ・概要（アンケートやインタビューのを行う目的等）
- ・具体的な質問事項（用紙を添付してもよい。）

また、校内でのアンケート実施を希望する班が多かったため、個別ではなく一括して実施できるようにした。

「Google Forms」で実施する班については、生徒棟の1～4階にQRコードとアンケート用紙を掲示した。一方、紙でアンケートを実施する班については、アンケート用紙を各教室に置き、職員室前の回収箱で回収できるようにした。新型コロナウイルス感染症の流行が背景となり、本年度の途中に、学習用のオンラインプラットフォームとして「G Suite for Education」を導入したため、「Google Forms」を使ってアンケートを実施した班も多かった。アンケート用紙の作成にあたっては、資料8のような例を示した。

「Google Forms」作成の様子



資料8 アンケート例

- 班 「テーマ」
- ・目的、期間
- ・問い合わせ先
- ・アンケート結果の取り扱い
- ・QRコード（ネットで作成方法等を調べる）

(6) フィールドワーク

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、10月13日(火)に予定通りフィールドワークによる校外でのアンケート・インタビュー調査を実施することができた。そのアポイントメントは先述の(5)のように、事前に教員がチェック・指導した上で、生徒によって行われた。次に示す**資料9**は各班のフィールドワーク先一覧である。これを見ると学校や市役所、教育委員会など、公的な機関への調査をする班が多いことがわかる。

資料9 令和2年度フィールドワーク先一覧

大分類	小分類	班数	内訳
高校	公立	8	千葉市立千葉高等学校、千葉県立検見川高等学校、千葉県立国府台高等学校、千葉県立東葛飾高等学校
	私立	1	千葉明德高等学校
	自校	3	
	小中学校	3	千葉市立本町小学校、千葉市立打瀬中学校
公的機関	千葉市役所	9	
	千葉市教育委員会	4	
	その他	10	千葉市新湊学校給食センター、青少年サポートセンター、千葉中央コミュニティセンター、千葉市教育センター、千葉市観光協会、稲毛海浜公園事務所
民間企業	交通	2	千葉海浜交通株式会社、千葉都市モノレール
	小売	1	ファミリーマート稲毛東三丁目店
	施設	1	千葉ポートタワー

(7) 発表準備の指導

本年度は以下の決まり事に沿って、スライド資料を作成させた。先述の通り、本年度の途中より「G Suite for Education」を導入し、学校用アカウントを生徒に配布しているため、「Google スライド」を使い、スライド資料を作成した。「Google スライド」の利点は、同時編集が可能であること、生徒個人の端末を使い、各自のタイミングで編集が可能であること、さらに編集の履歴が自動でクラウド上に保存されるためデータの紛失等の恐れがなく、一旦編集したものを過去のバージョンに簡単に戻すことが可能であること、などが挙げられる。またスライド資料について教員のアカウントも共有すれば、生徒の進捗状況をリアルタイムに確認できるのも利点である。一方、通信費が自己負担である点は課題である。

プレゼンテーションの決まり事

- 1 発表時間は6分以内。
- 2 スライドの枚数は8枚以内。
- 3 以下の「プレゼンテーションで発表すること」の項目を網羅していること
 - (1) 研究テーマ
 - (2) 研究目的（何を明らかにするための研究なのか）
 - (3) 研究テーマを選んだ理由
 - (4) 研究の意義（この研究を行うことで、どのような影響があるか）
 - (5) 研究の仮説
 - (6) 研究で用いる手法
 - (7) 研究結果
 - (8) 結論と提言
 - (9) 引用・参考文献・協力

発表会は昨年度と同様、まずリハーサルを行い、そのあと活動単位となる各教室での発表会、そして各教室の代表による学年内発表会といった形で行った。昨年度からの改善点としては、学年内発表会を午後の1時間から2時間と十分時間を確保して行ったことである。そのため、ほぼシミュレーションした通りに実施することができた。**資料10**は学年内発表会の代表班となった班の一覧である。その中で23班、44班、51班の3班が代表班となった。(3)のテーマ設定で述べたように、本年度は昨年度と比較し、地域を課題とする班の数が大幅に増えた。しかし、代表班の内訳を見ると、学校をテーマとした班が多いことがわかる。地域をテーマとした班の調査がより深まるような指導が今後の課題である。

資料10 学年内発表会の代表班一覧

班	テーマ	班	テーマ
4	不審者情報共有アプリについて	30	学校を中心として千葉市を盛り上げよう！
13	学校の空調	38	千葉市に新しい観光地を
20	授業の一貫でDIY	44	学生の荷物を軽くするには
23	映像授業の活用について	51	授業を効率よく受けたい

また、11月24日(火)の各教室での発表会は、同日に開催した第1回運営指導委員会に参加された、運営指導委員の先生方にも参観していただいた。**資料11**は、運営指導委員の先生方から指摘をいただいた内容を整理したものである。

資料 1 1 第 1 回運営指導委員会での指導・助言（抜粋・要約）

- ・プレゼンの表現力に重きが置かれていたが、論理や提案性を重視した方がよい。
- ・発表会の雰囲気は日常の延長となっており、緊張感を持たせた方がよい。
- ・聞き手側の生徒や大学の教員による厳しい質問を受ける時間をつくる。発表側は質疑応答や議論に耐えるような理論武装をする。
- ・今回の発表はまだまだ中間発表レベルで、先生方のアドバイスや整理によって伸びていく余地がある。
- ・テーマの決め方、調査方法、評価の仕方について、専門家による講演会を実施した方がよい。

3 実施計画及び事後アンケート（生徒・職員）

令和 2 年度の千葉市創生プロジェクトにおける実施計画、班別テーマ一覧、事後アンケート結果については、以下のとおり（資料 1 2 ～ 1 4）。

資料 1 2 令和 2 年度実施計画

前期			後期		
No.	日程	活動内容	No.	日程	活動内容
1	6 月 9 日	・オリエンテーション	1 7	1 0 月 6 日	・調査研究 ・発表準備
2	6 月 1 6 日	・アイスブレイク	1 8	1 0 月 1 3 日	・千葉市関連事業 F W
3	6 月 2 2 日	・アイスブレイク	1 9	1 0 月 2 0 日	・調査研究 ・発表準備
4	6 月 2 3 日	・役割分担 ・テーマを決める①	2 0	1 0 月 2 7 日	・調査研究 ・発表準備
5	6 月 3 0 日	・テーマを決める②	2 1	1 1 月 1 6 日	・発表リハーサル
6	7 月 7 日	・テーマを決める③ (テーマ最終決定)	2 2	1 1 月 1 7 日	・発表準備
7	7 月 1 3 日	・探究活動①	2 3	1 1 月 2 4 日	・クラス内発表
8	7 月 1 4 日	・探究活動② (企画書提出)	2 4	1 2 月 1 日	・学年発表 (6・7 時間目)
9	7 月 2 0 日	・探究活動③ (企画書再検討)	2 5	1 2 月 1 5 日	・総探のまとめ アンケート
1 0	7 月 2 1 日	・探究活動④ (企画書完成)			
1 1	7 月 2 7 日	・探究活動⑤			
1 2	7 月 2 8 日	・探究活動⑥			
1 3	8 月 2 5 日	・調査研究 ・発表準備			
1 4	9 月 1 日	・調査研究 ・発表準備			
1 5	9 月 2 8 日	・調査研究 ・発表準備			
1 6	9 月 2 9 日	・調査研究 ・発表準備			

資料 1 3 令和 2 年度班別テーマ一覧

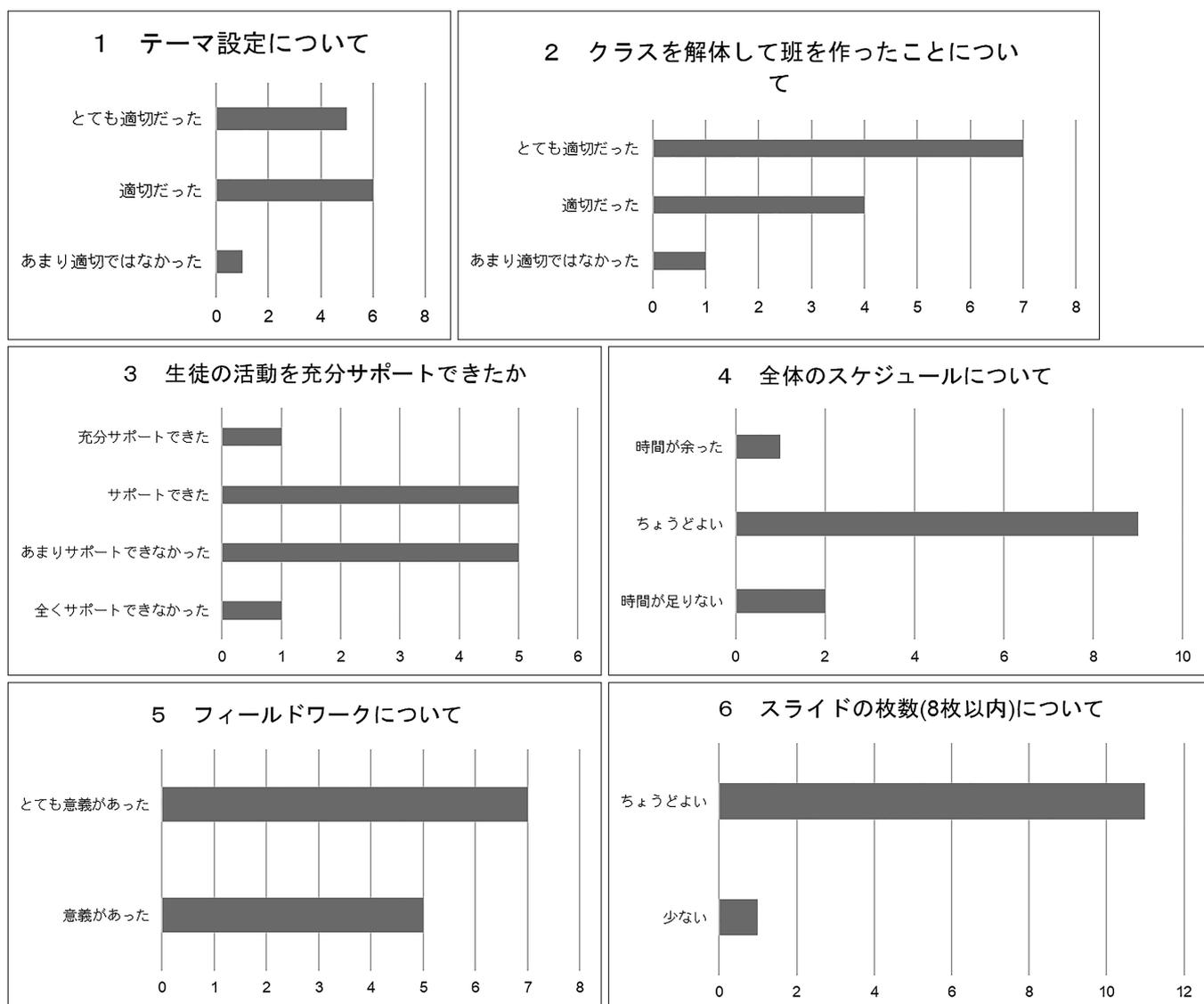
★学校に関する課題 30班 授業時間・ICTの活用・制服・登校手段・設備

◎地域に関する課題 23班 観光・地域創生・災害・安全・公共交通・スポーツ

班	テーマ	班	テーマ
1	給食の日を作る★	28	千葉都市モノレールの活性化◎
2	災害対策について◎	29	学校のインターネット環境を良くする★
3	私服登校の日を作る★	30	学校を中心として地域を盛り上げよう！◎
4	不審者情報共有アプリについて◎	31	バスの混雑の改善◎
5	公園◎	32	地域の人同士がつながりをもつ◎
6	映像授業の活用について★	33	スポーツ人口増加計画◎
7	名所を作る◎	34	授業時間の改善★
8	スクールバス★	35	生徒の休みを増やそう★
9	習熟度別授業★	36	リモート授業をもっと活性化させよう★
10	スクールバスとレンタルサイクル★	37	THE 稲校 DISH0 円食堂 in 千葉◎
11	市立学校食事改革★	38	千葉市に新しい観光地を◎
12	登校日とオンライン授業の選択制授業★	39	千葉市のキャラクター改革◎
13	学校の空調★	40	海浜公園を有名にしよう◎
14	テーマパークを作って市の収入を増やそう計画◎	41	特産物をPRしよう◎
15	海の活性化◎	42	学校の始業時間を遅らせる★
16	千葉市区対抗ご当地グルメ選手権◎	43	夏休み改革～新しい自分を見つけよう！～★
17	スマホを取り入れた授業★	44	学生の荷物を軽くするには★
18	学生が被害にあう事件・事故が多い★	45	子供が安全に遊びたがる公園づくり◎
19	千葉市の魅力を再発信◎	46	学校の制服改革★
20	授業の一環でDIY★	47	学校の授業時間を短くする★
21	通勤通学を改善★	48	時差通学の導入★
22	WiFi★	49	学校にグローバル革命を！★
23	映像授業の活用について★	50	「千葉市アイデンティティ」を広めるために◎
24	購買レポリューション★	51	授業を効率よく受けたい★
25	MCR (My City Report)◎	52	住民をふやす町づくり◎
26	学校生活における服装★	53	スマホを使った千葉市観光プロジェクト◎
27	学校にいる時間が長い★		

資料 1 4 事後アンケート（生徒・職員）抜粋 （令和 2 年 1 2 月実施）

1 高校第 1 学年職員アンケート結果



◆良かった点（まとめ）

- ①生徒の活動に対する自主性・積極性・熱心さが見られたこと。
- ②校内 TV 放送を活用した説明によりスムーズに進められたこと。
- ③クラス混合班によって生徒への良い刺激、交友関係の広がりが見られたこと。
- ④今までにない切り口による班の発表が見られたこと。

◆改善点（まとめ）

- ①フィールドワーク先の千葉市限定の縛り
- ②教員の生徒への関わり方
 - アポイントメントなどの生徒の動きを把握する。
 - 中間発表会の質問などで修正すべき点を指摘するなど役割を明確化させる。
 - 担当班数を減らす、明確に担当班を決める。
 - 職員研修を行う。
- ③調査研究及び発表の質の向上
 - 論理展開の甘さを指摘し改善させる過程を組み込む。

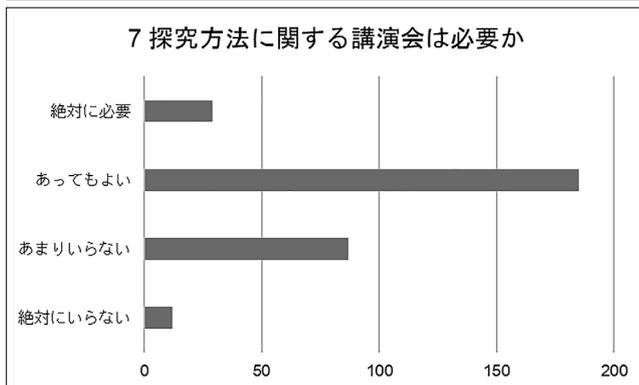
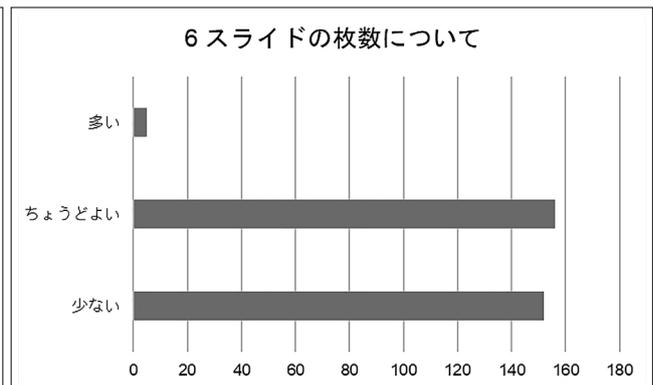
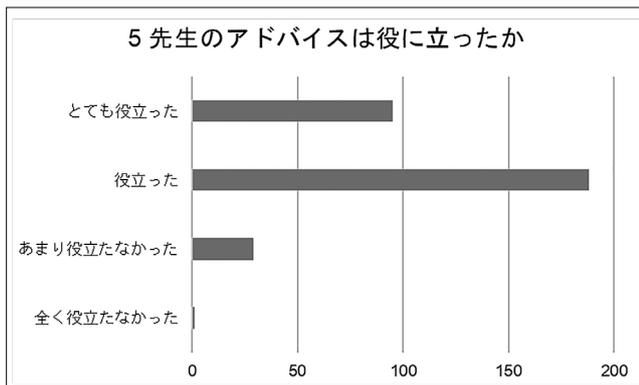
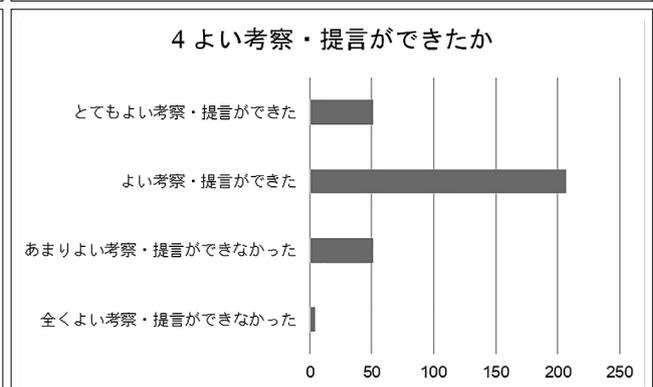
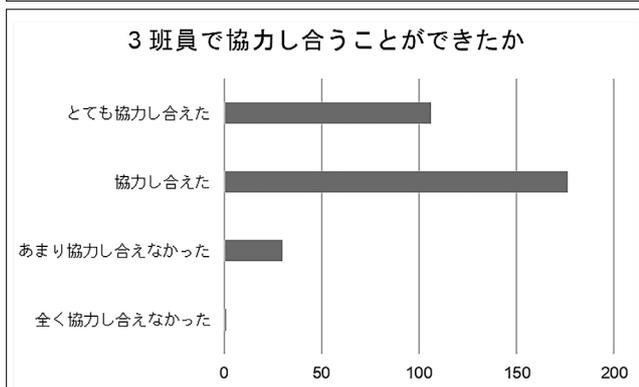
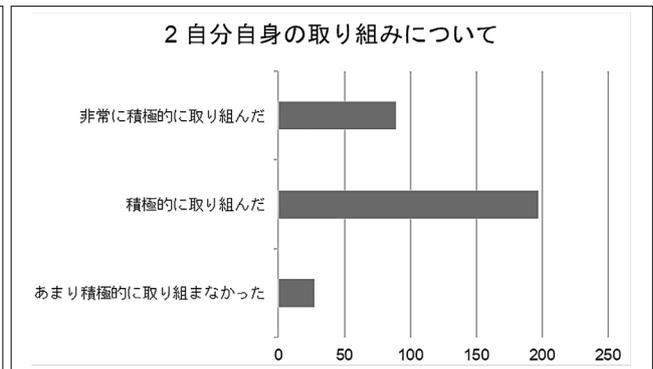
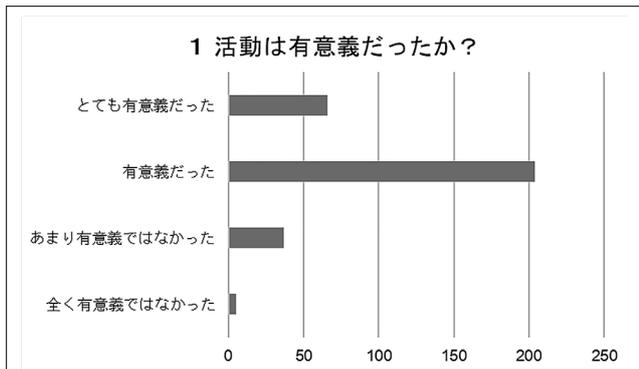
フィールドワーク先の少なさによるデータ不足を解消する。
 発表の事前準備の時間を確保し、発表技術の指導を行う。

④ ICT環境の整備

探究用パソコンの不足を解消する。
 クラス内リハーサルでの発表環境の整備を行う。

⑤ 卒業生の外部講師（助言者）としての活用

2 高校第1学年生徒アンケート結果



◆探究活動を通じてうまくいった点（抜粋）

- ・アンケートやインタビュー、ネットで調べたことを上手く関連づけてひとつの提言に持っていくことが出来た。
- ・先生のアドバイスを生かした発表内容にできた。
- ・班内で分裂することなく、役割を分担したり必要な時には手伝ったりして協力できた。また、フィールドワークが有意義なものになった。

◆探究活動を通じての反省点（抜粋）

- ・テーマや仮説の発想力が足りず時間がかかってしまったので、疑問に思ったことを解決できる能力をさらに磨いていきたい。
- ・プレゼンの練習があまり出来ず、調査した事を最大限に活かすことが出来なかった。
- ・テーマが中途半端になってしまい、具体的な情報が少なくなってしまった。

◆総合的な探究の時間において学んだこと・感想（抜粋）

- ・初めて会った仲間同士で最初は手間取ったけど、みんなで協力することで53班中1位になれたのでとても嬉しかったです。**稲毛高校代表としてもっと改善したものを市長に提案し、市長をうならせたいです。**また班を作って探究活動する機会があれば、より良いものを作りたいです。
- ・課題を自ら見つけること、初対面の人たちと協力し物事を進めていくのはとても難しかった。だが社会に出たらこのような事は日常的にあると思うので、慣れていきたい。**人をやる気にさせる、自分の思いをわかってもらうなどの能力も大切だと思った。**
- ・班のみんなで問題点を探してそこから調査したり、話をまとめたりするのはとても大変だったけれど**将来につながる経験**になったと思う。社会人の人が同じようなことを日々していると思うと凄く大変だと思った。
- ・データや調査から事実を見つけ出して論理的に説明する事の大切さを学びました。大変だったけど班の人たちの色々な意見を交換する事で新しい切り口を見つけられたと思います。**それは今後何かしらの問題を抱えた時に解決する時の手段になると思いました。**

4 本年度の成果と来年度の課題

最後に、**資料1**で挙げた本年度の課題に対し改善に取り組み、成功した点と上手くいかなかった点のそれぞれについて整理をする。

(1) 昨年失敗を基に改善に取り組み、成功した点

①慢性的な時間不足の緩和

昨年度の授業計画を基に、総探以外にLHRの時間も使えないか年度当初から検討した。文化祭が中止になり、LHRの時間がある程度使用できることになったため、コロナ禍でも学習時間を確保することができた。入学式も延期になり、校外学習も中止を余儀なくされ、行事活動ができない中、グループで活動することは貴重な体験となった。

②フィールドワーク中でのトラブルの減少

アンケート・インタビューについて生徒に説明する機会を設け、事前に担当の教員にチェックしてもらった。本年度は大きなトラブルは起きなかった。

③班で活動に参加しない生徒（フリーライダー）の存在の改善

40→53班と、班の数を増やして定員を8→6名にした。役割分担を明確化することで、自分の担当することがわかり、昨年よりもフリーライダーが減少した。

④事業の継続性（効果的な引継ぎ）について

昨年の担当者が継続して中心的に企画・立案を行うことで、継続性を担保した。一方、学年集会を行うことが難しく、全体に伝達する手段を工夫する必要があった。そこで、クラスに設置されている50インチテレビを活用して、スライドを用いた説明を7回行った。これにより各クラスで情報が共有され、クラスを担当する先生の負担を減らすこともできた。

(2) 昨年の失敗を基に改善に取り組んだが、上手くいかなかった点

①調査やスライド作成時に、生徒が個人端末を使用し、通信費も負担している点

スライドを制作したり、連絡を取ったりするために個人端末は必需品である。タブレットやWiFiのレンタルを申請したが、予算がなく実現できなかった。個人端末を持っていない生徒も少数ながらいるため、来年度も生徒負担の軽減に取り組んでいきたい。経済的な困窮者もいるために、改善すべき点である。

②企画立案への外部組織の活用

コロナ禍ということもあり、外部の方をお願いして講演を行うことができなかった。（昨年は東北芸術工科大学デザイン工学部講師 丸山 傑 氏に講演を依頼した。）また、企画書を学生や社会人の方に添削していただくこともできなかった。今後、引き続き懸案事項として改善を図っていきたい。

③テーマ設定の難しさ

生徒の創生プロジェクトへのモチベーションが高まるように、押しつけでなく「身近な疑問」をテーマに考えさせた。昨年よりは時間があり、落ち着いて考える時間は多くなったものの、やはり難しい。放送大学教養学部教授 岩崎 久美子 氏の提言助言にあるように写真などを活用して、違った角度からテーマを考えさせることも検討したい。

(3) 今後の千葉市創生プロジェクトへの継承

本事業に指定される前までは学年の担当者が主体となって年度ごとに企画を立てていた。事業終了後に総括を充分行い、反省点などを検証して他学年に引き継いでいたとは言い難い。本年度、初めて担当者が変わらずに継続して企画することができた。これまでに記したように成功した部分、改善できた箇所もかなりある。

しかし、テーマの設定、企画書のアドバイス、プレゼンテーションのスキルなど、まだまだ不足している部分は多い。担当教員も専門家でないため、授業の内容に意見が欲しい時もあるが、残念ながら学校の中でアドバイスできる人材は限られている。

本年度、神田外語大学アカデミックサクセスセンター長 長田 厚樹 氏、放送大学教養学部教授 岩崎 久美子 氏、敬愛大学地域連携センター室長 藤森 孝幸 氏に長期的なアドバイザーを引き受けていただいた。今後、創生プロジェクトについて忌憚のないご意見をいただき、プロジェクトがさらに良いものになるように努力していきたい。

参考文献

- (1) 岡本尚也 (2017) . 『課題研究メソッド』 . 啓林館
- (2) 岡本尚也 (2019) 『課題研究メソッド Start Book—探究活動の土台のために』 . 啓林館
- (3) 後藤芳文, 伊藤史織, 登本洋子 (2014) . 『学びの技 14歳からの探究・論文・プレゼンテーション』 . 玉川大学出版部
- (4) NHK (2020) . アクティブ10 プロのプロセス .
https://www.nhk.or.jp/sougou/active10_process/ . 2021年2月16日